

2020年度教育研究活動報告用紙(様式9)

| | | |
|----------|--------|-------------------------|
| 氏名 池口 功晃 | 職名 准教授 | 学位 博士(経済学)(久留米大学 2019年) |
|----------|--------|-------------------------|

| 研究分野 | 研究内容のキーワード |
|-------------|---------------|
| 観光経済学、地域活性化 | 日帰り観光、観光の経済効果 |

| 研究課題 |
|--|
| <p>観光を通じた地域経済活性化に関する国内のこれまでの研究は、観光地の「魅力」こそその核心であると捉えたものが多く、例えば、地域における温泉、食事、レクリエーションなど、いわゆる観光資源の魅力をいかに高めるかということに焦点が当てられてきた。しかし、近年の急速な高速交通網の発達、人々の目的地への移動を短時間で可能ならしめるため、地域経済活性化の研究においては観光地のみならず観光者にも焦点を当て、①観光行動を消費者行動と捉えた消費行動分析、②観光地間の競合関係の分析、③観光客の観光消費額をもとに産業連関表を通じた精緻な経済分析などを通じて計量的・客観的に行う必要がある。そこで、私の研究では、まず観光の概念を整理した上で観光者の行動を制約する2つの要素、すなわち「時間」と「費用」に着目し、その費消関係に対して、経済学の効用概念を援用しつつ、観光行動の類型化とその分析を試みた。そして、観光者による観光目的地の選択場面において、これら「時間」と「費用」が意思決定の重要な要素になるとの仮定のもとに、国内の具体的な地域(大分県)を対象に、GIS(地理情報システム)等を用いて、各観光地が取り込む日帰り観光圏を分析し、さらに観光地間の競合関係を明らかにした。次に、大分県14市を事例に大分県産業連関表からそれぞれの産業連関表を作成した上で、観光客の観光消費額をもとに経済効果を測定し、観光がそれぞれの地域経済にどの程度寄与しているかを明らかにした。</p> <p>このように私の研究は、地域社会の課題を「観光」という切り口で捉え、観光を通じた計量的・客観的な地域経済の分析および評価を主とするものである。今後の研究の方向性としては、(i)サーベイ法を用いた日帰り観光の経済効果を計測することにより、日帰り観光の経済効果とその当該地域の産業構造の関係についてより精緻な考察を行うこと、(ii)修正ハフモデルを観光地間の競合関係により深く組み込んで精緻な分析を行うこと、(iii)以上を含めた手法を福岡県、とりわけ北九州にも応用し、九州の日帰り観光を総体として研究することを課題としている。</p> |

| 担当授業科目 | |
|--|---|
| <p style="text-align: center;">(前期)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ (観光文化学科) ・国際ビジネス論 (英語・観光文化学科) ・初年次セミナーⅠ (観光文化学科) ・日本経済入門 (観光文化学科) ・ビジネス演習A (観光文化学科) ・ビジネス演習B (観光文化学科) ・国内旅行実務 (観光文化学科) ・専門演習Ⅰ | <p style="text-align: center;">((後期))</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリアデザイン論Ⅱ (観光文化学科) ・ビジネスファイナンス (観光文化学科) ・多国籍企業論 (観光文化学科) ・地域活性化演習A (観光文化学科) ・地域活性化演習B (観光文化学科) ・ツーリズム演習 (観光文化学科) ・地域観光資源開発論 ・専門演習Ⅱ |

| 授業を行う上で工夫した事項(※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項) |
|---|
| <p>授業科目名【インターンシップ】</p> <p>2020年度においては、新型コロナウイルスの影響により通常のインターンシップが実施できなかったため、業界研究を中心に講義形式にて実施した。</p> |

| |
|---|
| <p>授業科目名【国際ビジネス論】</p> <p>貿易取引のしくみ、貿易書類の読み取り方についてレジュメを作成し、学生に対しわかりやすく説明した。また毎回授業前に前回の授業を踏まえた復習を実施し、学習の定着を図っている。</p> |
| <p>授業科目名【初年次セミナーⅠ】</p> <p>大学での学び方、学生生活など、大学生活を送るにあたり習得しておくべき、さまざまな内容を取り扱い、わかりやすく解説した。</p> |
| <p>授業科目名【日本経済入門】</p> <p>経済学系の科目は金利、株価、貿易、財政、税などマクロ経済学の基礎を理解していなければ、真に理解できない。そこで、授業の前半ではマクロ経済学の基礎について図や計算による演習をおこない、理解の定着を図った。その後、戦後の日本経済（GHQ の占領下～高度経済成長期～石油ショック～バブル経済の発生と崩壊～不良債権問題～アベノミクス）について上述した基礎を踏まえながら順に説明した。</p> |
| <p>授業科目名【ビジネス演習 A・B】</p> <p>ビジネス社会で必要とされる①仕事への取り組み方や②ビジネスマナー③知っておきたい会計・法律・税金の知識を詳しく丁寧に説明している。</p> |
| <p>授業科目名【地域観光資源開発論】</p> <p>北部九州・山口の市町村における観光の取り組みについて、学生が各グループに分かれて実地・文献調査をおこない、それをもとに新しい観光のあり方について議論する場を設けた。</p> |
| <p>授業科目名【キャリアデザイン論Ⅱ】</p> <p>大学生の就職・キャリア支援のため、エントリーシートや履歴書の書き方、また集団面接、ディスカッションのトレーニングをおこなっている。</p> |
| <p>授業科目名【ビジネスファイナンス】</p> <p>ビジネスではいわゆる数字（例えば、売上、原価、利益など）を読むことが大切である。本授業では、あらゆる業種の財務諸表を実際に扱い、企業財務（ファイナンス）の分析手法について詳しく説明している。</p> |
| <p>授業科目名【多国籍企業論】</p> <p>経済活動のグローバル化が進むなか、国際ビジネス活動において主要な役割を演じている多国籍企業は、経済・社会・文化などの面で、世界に大きな影響を及ぼしている。このような多国籍企業を理解することを通して、国際ビジネス、（貧困問題を含めた）世界の動き、日本企業、欧米企業などについて詳しく説明している。</p> |
| <p>授業科目名【地域活性化演習 A・B】</p> <p>本授業においては例年、地域活性化の重要な担い手である企業等を中心とした生産主体に着目し、企業と学生の共同作業を通じて地域活性化に資する一定の成果を追求することを目的として実施している。しかし、2020年度は新型コロナウイルスの影響により、座学に切り替え、地域活性化に関する論文のレビューを通じ、これらの議論を深めた。</p> |
| <p>授業科目名【ツーリズム演習】</p> <p>九州におけるインバウンド観光振興のために、観光マーケティング及びインバウンド観光の知識を有するインバウンド対応型の観光人材の育成が求められている。本授業においては、九州と上海を研究事例として、観光マーケティングとインバウンド観光の理論を詳しく説明している。</p> |

| |
|--|
| <p>授業科目名【国内旅行実務】</p> <p>国内旅行業務取扱管理者試験を念頭に、国内の観光地理を紹介、また運賃料金計算のしくみなどについて説明している。</p> |
| <p>授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】</p> <p>前期はグループディスカッション、後期は卒業論文作成のための先行研究のレビューをおこなっている。</p> |

| 学 会 に お け る 活 動 | | |
|--|-----------|---|
| 所属学会等の名称 | 役職名等 (任期) | 加入時期 |
| 日本企業経営学会 九州都市学会 人文地理学会 経営行動研究学会 観光学術学会 日本観光研究学会 日本地理学会 福岡地理学会 | 設立発起人 | 2018年4月～現在に至る 2015年4月～現在に至る 2014年4月～現在に至る 2013年4月～現在に至る 2012年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2008年4月～現在に至る 2007年12月～現在に至る |

| 2020年度 研究業績等に関する事項 | | | | |
|--------------------|---------|-----------|---------------------|----|
| 著書、学術論文等の名称 | 単著・共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (著書) | | | | |
| (学術論文) | | | | |
| (翻訳) | | | | |
| (学会発表) | | | | |

| 外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む) | | | |
|------------------------------------|------|-----------------------|-----------------|
| (1) 共同研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 研究者 ○代表者 () 内は学外者 | 交付決定額 (単位:円) |
| | | | |

| 外部資金 (科学研究費補助金等) 導入状況 (本学共同研究費を含む) | | | |
|------------------------------------|------|-----------------|----|
| (2) 個人研究 | | | |
| 研究題目 | 交付団体 | 交付決定額 (単位:円) | 備考 |
| | | | |

社 会 に お け る 活 動 等

| 団体・委員会等の名称 (内 容) | 役 職 名 等 | 任 期 間 等 |
|--|-------------|-------------------|
| 「輝こう！あまがせ・支援大使」(大分県日田市天瀬町「天瀬公民館まちづくり事業」) | 観光に関する助言・指導 | 平成 25 年 9 月～現在に至る |
| 宇佐市まち・ひと・しごと創生有識者会議 審議委員 | 副委員長 | 平成 27 年 7 月～現在に至る |
| 津久見市まちづくり推進事業審査委員 | 副委員長 | 平成 28 年 8 月～現在に至る |
| 日田市天瀬農業公園検討委員会 | 会長 | 平成 30 年 9 月～現在に至る |
| 北九州市民カレッジ 【大学連携リレー講座】 メディアと私たちのよりよい関係づくり | 講師 | 令和 3 年 2 月 12 日 |
| 北九州市政テレビ番組制作・放送業務委託業者選定会 | 選定委員 | 令和 3 年 2 月 2 日 |

学 内 に お け る 活 動 等 (役職、委員、学生支援など)

| |
|-----------|
| 教務委員会副委員長 |
|-----------|